

令和5年度 在宅介護・医療協働推進に向けた取組（高齢社会対策部関係）

- 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、地域における介護・医療の関係機関が協働して在宅介護・医療を一体的に提供することが必要
- H25年度から実施してきた訪問看護の推進に加え、介護医療連携の推進や看多機の推進を含む、多角的・総合的な取組を実施

施策の方向性

【訪問看護の推進】◇

訪問看護ステーションの安定的な運営のため看護職の確保・育成・定着の支援策を実施

【介護医療連携の推進】◇

在宅における介護職と医療職の円滑な連携・協働を推進するための研修等を実施

【看多機の推進】◆

看多機への参入と安定的な運営を促進するため、研修等を実施

令和5年度の取組

(◇) 訪問看護の推進 (◇) 介護医療連携の推進 (◆) 看多機の推進 【】当初予算(案)/規模

1 訪問看護人材確保育成事業

(1) 地域における教育ステーション事業 (◇◇) 【47,039千円/13箇所】
育成支援できる訪問看護ステーションを「教育ステーション」として指定し、地域の訪問看護人材の育成支援や介護医療連携等の以下取組を実施

- 訪問看護ステーション体験・研修（同行訪問等）
- 地域の医療機関等での訪問看護師に必要な知識・技術習得のための研修
- 訪問看護師確保のための取組（就業相談や人材育成の相談等）
- 訪問看護師の育成・定着や地域連携の強化に関する取組（勉強会等）
- 地域の訪問介護事業所との間での同行訪問等による研修（介護医療連携研修）

(2) 管理者・指導者育成事業 (◇◆) 【9,954千円/359人】
訪問看護ステーションの管理者・指導者向け研修及び看多機管理者・参入希望者向け研修を実施し、管理者育成と管理者同士のネットワークの構築を支援

- ・基礎実務コース（対象：新たに管理者・指導者となった方等） 定員92人
- ・経営安定コース（対象：管理者の経験が浅い方等） 定員92人
- ・育成定着推進コース（対象：人材育成等について学びたい方等） 定員144人
- ・看護小規模多機能型居宅介護実務研修（対象：看多機の開設を検討している訪問看護ステーション管理者、看多機管理者等） 定員31人

(3) 訪問看護人材確保事業 (◇) 【4,138千円/1回】
看護職等に訪問看護の重要性や魅力をPRするための講演会等の実施

(4) 認定訪問看護師資格取得支援事業 (◇) 【7,963千円】
訪問看護ステーション看護師の認定看護師（訪問看護、皮膚・排泄ケア、認知症看護、緩和ケア）資格取得に係る経費を補助

(5) 在宅介護・医療協働推進部会 (◇◇◆) 【707千円】
東京都在宅療養推進会議の部会として、一体的な在宅療養の推進を検討

2 訪問看護ステーション代替職員（研修及び産休等）確保支援事業 (◇)
【19,154千円】

常勤の看護職員が研修受講や産休・育休・介休等を取得する際の代替職員の確保に要する経費を助成することで、訪問看護師の勤務環境の向上や定着推進を図る

3 新任訪問看護師育成支援事業 (◇) 【13,047千円/21人】

管理者等が都の定める研修（※）を修了し、訪問看護未経験の看護職の雇用・育成を行う訪問看護ステーションに対し、育成に要する経費を補助
（※）管理者・指導者育成事業における「育成定着推進コース」

4 訪問看護ステーション事務職員雇用支援事業 (◇) 【22,300千円/26事業所】
事務職員未配置の訪問看護ステーションが新たに事務職員を雇用する場合の経費を助成することで、看護職員が専門業務に注力できる環境の整備を図る

5 看護小規模多機能型居宅介護に係る連絡会 (◆)

区市町村の看多機への理解促進及び看多機事業所同士の情報共有のための連絡会を実施し、看多機の安定的な運営を図る。

6 いきいき・あんしん在宅療養サポート訪問看護人材育成支援事業 (◇) **新規**
【25,920千円】

「在宅療養支援のためのシミュレーション教育プログラム(仮)」を策定し、訪問看護人材の育成を支援

7 訪問看護オンデマンド研修事業動画公開 (◇)

訪問看護師が限られた時間を効率的に活用してスキルアップできるよう研修動画を配信

現状と課題

- 高齢化とともに医療的ケアが必要な要介護高齢者等が増加。令和7年度の訪問看護サービス量は元年度比で約1.4倍が見込まれる。
- 訪問看護師に求められる能力のひとつとして、フィジカルアセスメントが不可欠。在宅環境の中で得られる情報を収集・活用し、的確に判断する能力が大切
- しかし、OJTのみでは、現にサービスを利用している利用者の症例以外は学ぶ機会が少なく、対応困難例に対する技術の習得が難しい場合がある。
- フィジカルアセスメント習得にはシミュレーション教育が有効であるが、人体型シミュレータを個々の訪看ステーションで所有することは費用面等の課題から困難

事業内容

人体型シミュレータを活用したシミュレーション教育プログラムを策定して訪問看護師を対象に研修を実施、フィジカルアセスメントの向上を目指す。

1年目 (R5) 課題分析の調査・プログラム作成

- ・教育プログラム構築のために、都内訪問看護ステーション等に調査を実施
- ・東京都訪問看護教育ステーションにヒアリングを実施
- ・暫定版の「在宅療養のためのシミュレーション教育プログラム(仮)」を作成



2,3年目 (R6,R7) 教育プログラムの試行・効果検証

- ・東京都訪問看護教育ステーション等と連携し、近郊の公共施設等に人体型シミュレータを運搬して研修を実施。
- ・研修の前後にeラーニングを実施して在宅療養に関する基本的知識の整理を実施
- ・最終年度に事業全体を通しての効果検証を実施

継続的なeラーニング
知識の整理



人形型シミュレータで実践<技術>



現任訪問看護師の
一層のスキルアップを支援